

## 第39回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:令和元年9月12日(木曜日) 10:00~11:30
- 場 所:仙台市役所上杉分庁舎 2F 第2会議室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、阿部 由紀子 委員、大庭 克己 委員、日下 晋 委員、佐川 葉 委員、佐々木 敦 委員、菅井 一男 委員、菅原 陽介 委員、西大立目 祥子 委員、深松 努 委員、牧野 弘明 委員、山中 匠 委員
- 欠席委員:小田 隆史 会長代理、多田 千佳 委員
- 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 内 容:

### <次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

広瀬川創生プランの中間見直しについて

4. 報 告

令和元年度重点事業の中間報告について

広瀬川魅力創生サポーター認定状況について

5. その他
6. 閉 会

### ■ 要 旨:

- 広瀬川創生プランの中間見直しについては、課題と見直しの方向性について了承された。今後は本日いただいた意見を踏まえ検討を進めていく。

## ■ 議事詳細：

### 1. 開会

#### ○司会（吉田課長）

只今より「第39広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の吉田である。

小田会長代理、多田委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。

ここで、事務局より報告がある。

まず今回から新たに委嘱した委員を紹介する。これまで株式会社JTB仙台支店より村山 隆夫委員に出席いただいていたが、人事異動により今回から佐川 葉委員に出席いただいている。

また、杉山 ふじ子委員から、都合により委員辞退の申し出があり、7月26日付で解嘱している。後任の人選については、現在事務局にて検討中である。

次に仙台市職員にも人事異動等により変更となった職員がいるので紹介する。

建設局次長の 岡本 一郎である。

百年の杜推進部長の 佐々木 亮である。

百年の杜推進課長の 岡田 真之である。

公園課長の 阿部 正浩である。

また、本日、建設局長の小高が所用により欠席である。

### 2. 挨拶

#### ○司会（吉田課長）

はじめに、小祝会長からご挨拶をお願いしたい。

#### ○小祝会長

お忙しい中、お集まりいただき感謝する。秋の気配も感じられるようになってきている。秋の広瀬川も大変魅力的であり、こうした魅力を活かしていけるよう、本協議会で議論していきたい。本日も宜しくお願ひする。

#### ○司会（吉田課長）

続いて、建設局長の小高に代わり、次長の岡本よりご挨拶を申し上げる。

#### ○岡本次長

本日は、お忙しい中、皆様お集まりいただき感謝申し上げます。また広瀬川創生プランの施策の推進に、ご協力をいただき重ねて感謝申し上げます。今年も広瀬川創生プランに係る取り組みとして、広瀬川1万人プロジェクトに始まり、ゴールデンウィークの「広瀬川で遊ぼう」、それから先月行われた「作並かつぱ祭り」と、メインのイベントが行われている。こうしたイベントを通して、市民の方々に幅広く広瀬川に親しんでいただき、市民の方々がご自身で広瀬川を活用していただくことを期待している。まだまだ広瀬川創生プランに係るイベントは続くが、委員の皆様および市民の皆様に勉強させていただき、広瀬川の魅力がさらに広がるように支援してまいります。

本日の内容は、広瀬川創生プランの中間見直し、それと只今申し上げた取り組み事業の報告である。

広瀬川創生プランの中間見直しについては、前回の協議会にて頭出しをさせていただいた。広瀬川市民会議やNPOといった団体は、高齢化や人材不足といったことが問題になってきている。具体的な例として、これまで協議会の委員として参加いただいていた杉山委員が辞退されたが、すぐに広瀬川市民会議の中から後任の委員を選出できない状況となっている。広瀬川創生プランの中間見直しにあたっては、このような状況も鑑みながら進めてまいりたい。

### 3. 議事

#### ○司会（吉田課長）

本日は全14名の委員のうち、12名の方に出席いただいている。過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

#### ○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で西大立目委員にお願いしたいが、よろしいか。

=西大立目委員了承=

それでは次第に沿って、進めさせていただく。「広瀬川創生プランの中間見直し」について事務局より説明をお願いしたい。

#### ○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料1に沿って説明。

#### ○小祝会長

ただいまの事務局からの説明に対し、ご意見・ご質問はあるか。

#### ○深松委員

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会では9月28日に清掃活動を予定しており、先日、会員に集まってもらい事前の打合せを行った。今回は会場を昨年の14会場から17会場に増やして実施する。打合せでは、広瀬川魅力創生サポーター認定制度の周知も兼ねて色々な話をさせてもらった。「広瀬川で遊ぼう」と「作並かつぱ祭り」に協力いただくとサポーターの認定対象になること、子供達も楽しめるイベントであり、お子様連れで参加出来ることをお話し、可能であれば広瀬川1万人プロジェクトの会員からもこうしたイベントに協力するよう働きかけた。

高齢化はどうしても避けられない問題であるため、どこかの時点でテコ入れをしなければならない。資料1の中で事業実施者間の情報共有の促進とあるが、現時点では事業実施者で集まり、会議を行

うような取り組みは実施されていないと認識している。ぜひ仙台市で主導して会議体を創設していただきたい。そうすれば、各団体から様々な意見を聞くことができ、相互理解も深まると感じる。

また、事業実施者は様々なチラシを作成したり周知活動をしている。河川課のホームページでは周知されているが、そこまで辿りつける人は少ないと思うので、例えば仙台市ホームページのトップページなど目立つ所でイベントを周知いただきたい。

次に運営するスタッフ不足の問題についてである。「広瀬川で遊ぼう」は、開催がゴールデンウィーク期間中ということもあり参加を促す事は難しいが、例えば遠出する予定がない人などは子供と一緒にイベントに協力していただける場合もあると思う。問題は、そういった話をする場所が無いことである。ぜひ事業実施者で話し合うことが出来る会議体を創設いただき、各団体で話し合い、一つずつ課題を解決していくべきである。前から、広瀬川市民会議の体制強化の話は出ているが、現在まで何も変わらないまま高齢化が進み、これまで頑張ってきた方々がリタイヤしている。

広瀬川1万人プロジェクト一斉清掃の澱橋会場は、尚綱学院の目の前にあり、学校行事が無い時は、校長先生も含め学生が参加してくれる場合がある。広瀬川の魅力を広めることは教育の一環であるため、他の高校・大学の学生にも参加いただきたいと考えている。今年から荒浜等も清掃対象エリアとなった。特に海岸のゴミは無尽蔵にあるので、多く学生にぜひ参加していただきたい。ゴミを一掃すれば話題になり、さらに自分の手できれいにした経験があれば大人になっても清掃活動に参加いただけると思う。また学生に周知していくことで持続可能な活動になると思う。事務局の作業は大変になるが参加者側のモチベーションは上がる。

## ○小祝会長

貴重なご意見をいただき感謝する。他に質問・意見あるか。

## ○菅井委員

広瀬川創生プランが機能するかどうかは、プランの中核として位置付けているこの広瀬川市民会議が具体的にどのような活動が出来るか、ということが一番大きなテーマとなる。今回、事務局で各事業実施者にアンケート調査を実施し、課題が見えてきたが、問題はこの課題を具体的にどう実現していくかである。広瀬川市民会議の会員数は、資料によると23名と記載がある。しかし私自身、広瀬川市民会議と一緒に活動する機会が多いが、実際に活動されている方は10名以下である。広瀬川市民会議の活動にあたっては、河川課が支援をしているのが実態である。

したがって、広瀬川創生プランを実のあるものにするためには、何とかして広瀬川市民会議の会員を増やしていく必要がある。毎回、高齢化で人が減っていくとばかり言っても何も変わらない。

広瀬川魅力創生サポーター制度が施行され、認定団体が増えてきているようである。認定団体の方々は広瀬川に対して何らかの思いを持っており、一所懸命手伝ってくれる人達だと思うので、こういった方々に広瀬川市民会議のメンバーとして参画いただくようなお誘いをするべきである。企業であればCSRの観点から、通常勤務時間から時間を割いて社員を出すことが出来ると思う。本日も様々な組織から委員の方々が参加されている。ぜひ委員の方々の所属団体からも協力をいただきたい。「広瀬川で遊ぼう」では、多くの学生ボランティア来ていただくことで、イベントそのものが活気づき、大変助かっている。市民の方々は、「広瀬川で遊ぼう」に限らずイベントの実施は大変だと思っているかもしれないが、イベント参加者のアンケート結果をみると、楽しかったという感謝の声が多くあり、決して悪いこと

ばかりではない。ぜひ今後もこうした取組みを推し進めていきたい。

また何かをやるためには、資金が必要である。この資金をいかに集めるか関係者で知恵を絞り考えていく必要がある。

### ○小祝会長

深松委員からは、情報共有のための横断的な会議体の創設について提言をいただいた。菅井委員からは、コスト等についてのご意見をいただいた。またお二人からの共通意見として、広瀬川魅力創生サポーター認定制度の活用についてご意見をいただいた。認定を受けようとする団体は広瀬川に対して何らかの思いを持っており、こうした団体へ働きかけることで連携できるのではないか、ということである。

他にご意見あるか。

### ○日下委員

**資料1**「広瀬川創生プランの中間見直しについて」の14ページに今後の流れについて記載がある。今回、現状と課題の検討を行い、次回2月に見直し内容の具体案、骨子まで検討とあるが、今回は広瀬川創生プランの中間見直しであり、根本的な見直しではないとの認識で良いか。

### ○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

そのとおりである。今回はあくまで現行の広瀬川創生プランを推進するにあたり、課題となっている部分を見直すものである。

### ○日下委員

承知した。広瀬川市民会議は本来この10年の間にネットワーク機能や市民ファンドの運営まで担うことを期待されていた。しかし会員数の減少や高齢化等の問題でむしろ出来ない方向に進んでおり、また、広瀬川市民会議自身も期待される活動を出来ないと考えているようだ。広瀬川創生プランの推進体制のスキームは変えないということだと、深松委員のご意見にあった情報交換の場として事業実施団体の会議体を創設する場合、広瀬川市民会議に期待されるネットワーク機能については課題として残ってしまう。残りの計画期間5年で広瀬川市民会議がネットワーク機能を担うことが出来る体制になるのは正直無理だと感じる。会議体の創設を検討する場合、仙台市の関与がなければ実現できないと思うが、事務局としてはどのような考えを持っているのか。

### ○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

本日の協議会のご意見を踏まえての検討となるが、ネットワーク機能の部分などについては仙台市としてどのような支援が出来るかを検討し、次回協議会にてご報告したい。

### ○日下委員

それでは、仙台市として一定の関与は必要だという考えを持っており、それを念頭に本日の協議会の意見を踏まえ検討していくという事でよろしいか。

#### ○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

そのとおりである。

#### ○小祝会長

本日の協議会はあくまで広瀬川創生プランの現状の把握と、いただいたご意見の集約であり、この場で結論を出すものではなく、中間見直しの方向性について議論させていただいた。

他にご意見あるか。

なければ、事務局提案の内容でよろしいか。

=一同了承=

#### ○小祝会長

それでは、本日いただいたご意見・ご質問を踏まえ事務局にてまとめていただき、検討を進めていただきたい。

次に令和元年度重点事業の中間報告について、事務局より報告をお願いしたい。

### 4. 報告

#### ○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料2 に沿って説明。

#### ○小祝会長

ただ今の説明に対して、ご意見あるか。

#### ○西大立目委員

先ほど菅井委員から、「広瀬川で遊ぼう」ではたくさんの学生ボランティアに参加いただいたとお聞きしたが、どこの学生がどのような経緯で参加されたのか。「作並かつぱ祭り」は、学生ボランティアは関わっていないのか。

#### ○菅井委員

「広瀬川で遊ぼう」では、実行委員会を6回程度開催したが、そちらにも参加いただいたり、当日のスタッフとしてもお手伝いしてもらった。参加いただいたのは東北工業大学、宮城学院女子大学、東北大学の学生である。1日目は30名、2日目は36名、3日目は27名の学生ボランティアに参加いただいた。事前の準備から協力してくれた方もいた。

#### ○西大立目委員

それは大学の先生を通じて依頼をしたのか、それとも実行委員会から直接大学に依頼をしたのか。

#### ○菅井委員

両方である。

## ○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

「作並かっぱ祭り」については、今回東北工業大学の学生に1人参加いただいた。昨年は東北工業大学および宮城学院女子大学から、多数の学生にボランティアとして参加いただいたが、今年は開催日が例年より2週間遅かったことで、試験期間と重なってしまい学生の参加が難しかった。例年は、学生の皆様にも意欲的に参加いただいている。

## ○小祝会長

昨年の「作並かっぱ祭り」では、東北工業大学から20名ほど参加させていただいた。今年は5月が10連休であったこともあり大学の行事が後ろにずれ込み、さらに夏休みも少なくなり試験日程とちょうどイベントと重なってしまった。

学生の参加という観点では、本学では地域提案・創生という科目があり、学生をNPOや地域まちづくり団体に派遣し、そこでまちづくりや地域の環境を守るといった事はどうか、などについて学ぶ科目がある。ただし学生の関わり方については、学内でも課題となっている。科目の目的としては企画の段階から学生が参加し、実際のNPO活動の一連の流れを一から学ぶことを理想としているが、実際は受入れ側にそのような体制が無く、その場限りのボランティアとなってしまっている。学校側の目的と受入れ側の思惑にギャップがあり、スムーズにいかないのが現状である。学生ボランティアのお声掛けをいただくことはありがたいことではあるが、その場限りのボランティアでは学生にとっても有意義なものにならない。

ただし、昨年の「作並かっぱ祭り」では、授業の一環として事前に企画内容やイベント実施にあたっての課題について、数回に渡り実行委員会のメンバーからレクチャーしていただき、その後イベントに参加したため、学生は充実感を感じたようである。学生も計画段階から参加出来ると、やりがいを得ることができるようである。学生の参加の仕組みについては課題があると感じている。

## ○西大立目委員

以前、宮城学院女子大学の学生と大崎市にて畑の調査を行った経験があるが、その時は先生から事前にレクチャーを行っていただき、終了後も報告会等を行ったことで学生は非常に満足していた。

人員の問題や団体との関わり方など課題はあると思うが、参加する学生にとってアルバイトの代わりに行く、という意識にならない育て方ができると良いと思う。

また、今後実施してほしい催しについてアンケート結果があるが、単にそうした声に応えるだけではなく、それぞれ実施するイベントの目的や趣旨といったことも大事にしていくべきである。

## ○小祝会長

本学としても、まちづくりや地域の連携などについて学ぶ科目を必修としており、学生と地域や団体との関わり方などは共通の課題と認識している。

## ○山中委員

広瀬川1万人プロジェクトの一斉清掃と「広瀬川で遊ぼう」に参加させていただいた。清掃活動は千代大橋会場に参加した。参加人数が249人とかなりの人数だったが、ほとんどゴミはなく素晴らしい環

境だと感じた。

「広瀬川で遊ぼう」については、とても天気が良く、また小さな子供も楽しめる催しがあるため、お子様連れの家族が多く見受けられた。天候に恵まれれば安定したイベントになると感じた。主催団体は高齢化等の問題を抱えていると思うが継続して開催してほしい。

### ○深松委員

春の一斉清掃は天候に恵まれた。私も千代大橋会場に参加したが、ゴミが少なく当日は雑草むしり等も行った。地域の方々にも協力いただいているが、やりがいやモチベーションを上げるために今後は工夫が必要だと感じている。ただ、きれいな環境であることは良いことなので継続して取り組んでいきたい。

### ○菅井委員

「広瀬川で遊ぼう」では実行委員長を務めている。このイベントは今年で14回目である。去年は天候が悪く参加者数は約3,300人程度であったが、今年は3日間とも天候に恵まれ約5,500人の参加者となった。参加者数は天候に比例するという実感がある。先ほど西大立目委員からの発言にもあったとおり、目的や趣旨に沿ったイベントとなっているか、という視点が大事だと思う。「広瀬川で遊ぼう」は川辺で遊ぶことを目的としているが、これまで川は危険な場所あり子供達には川に近づくな、という教育方針でずっとやってきたと思うが、何が危険か子供には分からない。多少危険な目にあっても、何が危険なのか学ぶのだと思う。川辺で遊ぶことで水の冷たさや流れ・水圧を感じることで、生きていくために必要な事や環境への意識が醸成される。やはり市民が川に親しむ事は非常に大事だと思う。人は川が無いと生きてはいけない、大昔の文明も川の近くで生まれた。広瀬川があったから、仙台の町が100万人になったと私は思っている。

私は広瀬川ボートクラブの事業を行っているため、当日は手漕ぎボートを担当した。今年も3日間で約1000名近くの参加者があった。午前10時から午後3時までの営業であったが、2時間以上の待ち時間が発生し、お昼を過ぎると受付が満杯となった。来場者のアンケートではボートに乗ることができなくて残念だったというお声もあり、非常に好評であった。広瀬川ボートクラブについては、広瀬川市民会議と同様に高齢化の問題を抱えており何とかしなければならぬ。今年一年は活動を休んでおり、来年以降どうするか思案中である。

「広瀬川で遊ぼう」では、広瀬川を横断させたワイヤーに鯉のぼりを設置して泳がせているが、この鯉のぼりが高齢化していた。今年も河北新報に鯉のぼり募集の記事を掲載していただき、多くの市民から寄贈していただいたため、きれいな鯉のぼりを泳がせることが出来た。

当日は一般・大学のボランティアの方にお手伝いいただいたが、催しの主催スタッフが足りず今まで実施してきたポニーの乗馬体験やダンボールの工作体験を実施することが出来なかった。人員が確保できれば色々な事が出来ると思う。

### ○小祝会長

貴重なご意見をいただき感謝する。最初の議案で指摘されたような課題が顕在化していると感じた。私も内水面漁協の方にインタビューを実施した経験がある。その時お聞きしたのは、小学校で魚の絵を描く授業をすると、足が生えた魚の絵や、魚はパックに入っていると思っっている小学生がいるとお聞



きました。やはり川に親しむことは大事であると認識した。

次に「作並かつぱ祭り」について、何かご意見あるか。

### ○牧野委員

「作並かつぱ祭り」は今年で12回目である。今回は開催日が例年より2週間ほど遅れたが、ちょうど梅雨明けの時期となり天候に恵まれた。応募者数についても、昨年は300名程度であったが、今年は500名以上の応募があり開催時期が良かった。

運営側のスタッフについては、都合により学生ボランティアを集めるのが難しく、運営の難しさを感じた。イベントの参加者は250人程度だが、そこには26団体50数名の方が運営に関わっている。スタッフ不足や高齢化等の問題はあがるが、12回の開催の中でイベントの内容を少しずつ変えながら実施している。今年は、昨年まで実施していたインストラクターによる川遊び体験が事情により実施出来なくなった。これは協力団体のイベントの目的に対する理解やコストの問題に起因している。

一方で今年からの新しい取り組みである宝探しゲームや親子いかだ作り体験等では、地元企業の潜匠建設様に大変なご協力をいただき実施することが出来た。潜匠建設様は海・川・水辺等のプロであり、イベント内容とも関係が深い企業である。今回はそういった企業の協力がありイベントを成功させることが出来た。イベントの目的を理解していただき、参加企業の輪を広げていくことが大事だと感じている。企業にとってもCSRの一環となるので、企業へこうした取組みを広報しながら活動を継続していきける仕組みが出来れば良いと思う。

実際の参加者は普段川遊びをする機会が少ないと思う。「作並かつぱ祭り」は、川に慣れ親しんでいない方でも安心して遊べる環境である。川の美しい景観を感じてもらえる取り組みと思うので、今後も継続して行きたい。

### ○菅原委員

作並温泉組合として、「作並かつぱ祭り」に参加させていただいた。今回は牧野委員のお話のとおり、潜匠建設様に色々なアイデアを出していただいた。宝探しゲームや親子いかだ作り体験等を考えていただいたお蔭で、子供達が十分に楽しめるイベントとなった。

反省点としては、運営が潜匠建設頼みとなってしまった事である。例えば宝探しゲームは当日4回行ったがすべて潜匠建設様が仕切っており、だいぶ負担をかけてしまったと感じた。

新しい取り組みを行ったことで、これまでも「作並かつぱ祭り」に参加した方も楽しめたと思う。イベントのメインは川を体験出来ることである。以前実施していたインストラクターによる川遊び講習も大事だとは思いますが、単純に川に触れることが出来る機会をつくる事が一番大事だと思う。

当日は参加者の方と会話する機会があった。その方はお子様の小学校に配布されたチラシを見て、「作並かつぱ祭り」を知り応募したが、実際に参加してみてこんなに素晴らしいイベントとは知らなかったと仰っていた。小学校へのチラシ配布は効果的な周知方法と思う。各旅館にもチラシを置いたが、チラシを見てすぐにイベントに参加出来るわけではないので、旅館に来た方々にとっては参加のハードルが高いと感じた。

当日はかなりの暑さとなったため、熱中症で体調を悪くしたお子様がいた。今後は熱中症対策を考えていく必要がある。

学生ボランティアについては、企画段階から参加いただくと、さらに面白いイベントになると思う。

## ○小祝会長

実際に参加した委員の方々から、貴重なご意見をいただきました。  
それでは、令和元年度重点事業の中間報告についてはよろしいか。

=一同了承=

## ○小祝会長

つぎに、広瀬川魅力創生サポーター認定状況について、事務局よりお願いしたい。

## ○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料3 に沿って説明。

## ○小祝会長

ただ今の報告に対して、ご意見あるか。  
今回は認定状況の報告である。資料3に記載の課題については、今後の協議会でも検討していきたい。  
それでは、広瀬川魅力創生サポーターの認定状況の報告についてはよろしいか。

=一同了承=

## 5. その他

### ○小祝会長

本日の議事及び報告は以上となるが、その他委員の方から意見や情報提供等はあるか。  
なければ、本日はこれで終了とする。

## 6. 閉会

### ○司会（吉田課長）

活発な議論をいただき、感謝申し上げます。  
以上をもって、第39回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 \_\_\_\_\_ (印)

委員 \_\_\_\_\_ (印)